

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I. 社会経済史・経営史関係

1. 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第58号（2024年）を刊行した。
2. 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加などをおこなった。
3. 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付（3件）を受け研究を進めた。
4. 三井文庫史料叢書「三井大坂両替店『聞書』3」の刊行に向けて原稿の修正を進めた。
5. コロナ禍で数年間休止していた三井関係資料の調査・収集を再開、実施した。
6. 閲覧業務は完全予約制・閲覧枠制限のもとで実施した。
7. 資料のデジタルアーカイブ構築（デジタル画像による公開、劣化対策並びに災害等に備えたバックアップ作成）のために所蔵資料のデジタルスキニング等によるデジタル複製画像の作成を進めた。
8. 所蔵資料分類目録の整備および所蔵史料データベースの整備を進めた。
9. 書庫内の資料保存環境整備を進めた。
10. 公的諸機関（地方自治体史編纂等）の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
11. 三井の歴史に関する講演（対面・オンライン）をおこなった。
12. 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。

II. 文化史・美術館関連事業

A. 文化史関係（資料の保管・整理・研究事業）

1. 2021年12月に、三井不動産創立80周年記念事業として三井文庫が1億円の寄付を受け、そのうち美術館として5千万円の予算の中で「三井の文化に関わる社会貢献—過去から未来へ—」のテーマのもとに以下の事業を実施する。
 - ① 文化財の保存と継承＝収蔵品のデータベース化
 - ② インターネットで配信する映像制作（一部済）
 - ③ 三井の文化と社会貢献に関する出版事業（1件済）
 - ④ 学芸研究室図書の保管スペース確保事業（済）
 - ⑤ カフェ・ショップリニューアル（済）

今年度は以下の事業を継続して実施した。

(1) 収蔵品のデータベース化

- ① 主な収蔵品のデジタル撮影と、既存のポジフィルムのスキヤニング・データ化。
- ② 美術館収蔵品のなかから約1,000点を選び、当館ホームページ上で公開するためのデータベース作成作業。

(2) 三井の文化と社会貢献に関する出版事業

『三井記念美術館20年のあゆみ』の制作に向け打合せを開始。

2. 『三井美術文化史論集 第18号』を発刊した。

3. 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設としての認定が2024年9月16日をもって期限切れとなり、文化庁文化財課を通して新たに公開承認施設更新手続きを行った。その結果、2024年9月13日付で、文化庁長官都倉俊一名で承認証が届く。承認期間は2024年9月17日から2029年9月16日までの5年間。

4. 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。

5. 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

1. 年度を通して各種感染症の予防のため、スタッフの消毒・マスク着用は継続して実施した。

2. 今年度は、下記5回の展覧会を開催し、2024年4月1日から2025年3月31日までに合計132,391人が入館した。2005年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,786,564人となった。

(1) 「三井家のおひなさま 特別展示 丸平文庫所蔵 ^{みやこ}京のひなかざり」

（前年度より引き続き開催：2024年2月10日～4月7日） 4月の入館者数 2,060人

(2) 「茶の湯の美学 ―利休・織部・遠州の茶道具―」

（2024年4月18日～6月16日） 入館者数 36,087人

(3) 「美術の遊びとところ VIII 五感であじわう日本の美術」

（2024年7月2日～9月1日） 入館者数 16,334人

(4) 特別展「文明の十字路 バーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰 ―ガンダーラから日本へ―」

（2024年9月14日～11月12日） 入館者数 22,059人

(5) 「唐ごのみ ―国宝 雪松図と中国の書画―」

（2024年11月23日～2025年1月19日） 入館者数 12,380人

(6) 特別展「魂を込めた 円空仏 ―飛騨・千光寺を中心にして―」

(2025年2月1日～3月30日) 入館者数 43,471人

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、2023年12月の風災により破損した卯の花の間の屋根の修理および外壁が剥落した梢の間の修理を実施した。

箱根町が主催する箱根探訪会が別会場での開催となったため、公開を見送った。

<収益事業>

I. 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、現在は満室となっている。今年度は専用部・共用部照明のLED化、漏電火災警報機器取付工事などを実施したほか、不具合のある空調機の加湿器対応を実施した。

<事務局関係>

I. 役員人事

田中孝雄評議員から辞任の申し出があったため、2024年6月17日に開催した定時評議員会において岡良一氏（株式会社三井E & S 特別顧問）が後任として選任された。

Ⅱ. 総務・人事関係

社会経済史研究室の研究員2名が2024年3月31日に、司書1名が2024年4月30日に退職したため、それぞれ後任を採用し、研究員2名は2024年4月1日に、司書は2024年10月1日に着任した。

三井記念美術館運営部に契約職員1名を2024年4月1日に採用した。

<三井グループ350周年記念事業>

今年度は、7,900万円の寄附金をいただき、以下の事業を実施した。

1. 社会経済史研究室所蔵の史料のデジタル化
2. デジタル化のプラットフォーム・特設Webサイトの制作

なお、上記1及び2は2027年度までの継続事業である。